

優良受発注企業紹介

**独創的な発想で幅広いニーズに即座に対応
「どこにもない製品づくり」が目標の発想自由型企业**

株式会社 東洋工機

奥州市胆沢区の東洋工機は、独創的な印刷機やプリーツマシン（繊維製品を用途に応じた形や大きさに折ることができる）などの製品で世界的に高い評価を得ている各種機器の製造メーカーだ。旋盤、フライス、金型、組立などの各部門も備え、幅広いニーズに即座できる高精度の技術力でも知られている。近年は「自動車産業への挑戦」をテーマに、オリジナリティーの高い生産装置の開発に力を注いでいる。

ラベル印刷機を世界に輸出

東洋工機の現在の主力商品は、印刷から型抜きまで一度に処理できる凸輪転多色刷ラベル印刷機だ。ハムやソーセージを入れるチューブ、歯磨きのラミネートチューブ、飲料ボトルのラベルなどの特殊印刷が可能だ。柔軟（フレキシブル）な弾性のある版が使用でき、水性インキを用いることができることから環境にやさしいといわれるフレキソ印刷にも対応でき、高い付加価値を備えている。

ラベル印刷機は、昭和63年に第1号機が完成した。小型印刷機のユニットをカセット式に取り付けることができたり、検査装置をインライン化したカスタマイズ機が製造できるなど、各所に便利・効率性を追求

したさまざまな工夫がほどこされている。アフターフォローも万全であることから、世界中のラベル印刷会社から高い評価と信頼を得てきた。

OEM（相手先ブランド製造）供給で、昨年夏までに約400台を製造。昨年夏以降は、独自ブランドでの製造販売も開始し、ヨーロッパ、ロシア、中国、インド、東南アジアなどに輸出。すでに27台が売れている。

最近は自動車産業にも進出。トヨタ車の開発・生産を行っている関東自動車工業岩手工場に生産装置を納品している。

ベンチャー企業の先駆け

同社はそもそも、現会長の佐々木東洋児氏が、自転車販売からオートバイ販売に切り換えてスタートした県南モータースという個人会社である。

現社長の佐藤好夫氏が入社したのは昭和35年。20歳になったばかりのころ。ちょうどオートバイ販売に切り換えた時期だった。オートバイはよく売れた。「東洋児さんから買うと修理もしてくれる」と評判が高かった。

佐々木会長は、他の同業者と違って、オートバイ修理の時に感じていた不便を解消するために独自に作業台（ツール・スタンド）を考案、

「エンジンツールスタンド」と名付けて販売を始めた。「昔のエンジン修理は、リング箱の上にエンジンを置き、そばに手元をつけてバラシ方や組立をした。しかし、これでは人も無駄だし、不安定で危険。一人で安全に作業ができるように、エンジンを取り付けて360度自由に動かせるように開発したのがエンジンツールスタンドだった」。佐藤社長はこう振り返る。

佐々木会長は特許を取得し、エンジンツールスタンドをホンダの部品卸商に販売。さらにその後、佐藤社長の進言で東北6県の修理業者などに直接販売に打って出て大成功する。佐藤社長は「この時に、自社で製造販売することの強みを覚えたんですね」と話す。

佐藤社長が入社して4年目の昭和39年10月、県南モータースは有限会社となり、会社名も東洋ボーリングとなった。同時に、東洋ボーリングに新しく機械加工部門を立ち上げた。それまで順調だった修理や、クランク研磨、シリンダーのボーリングなどの将来性に危機感を抱いたからだだった。

「今はモーターレーゼーションの中で、エンジン修理も全盛だが、修理だけなら社業は現状維持か衰退だ。



アイデア製品のアコーディオンカーテン・カット器機。市販の安価な刃が使用でき、交換も簡単



ヒット作の一つの小型印刷機「名刺くん」。現在は凸輪転多色刷ラベル印刷機が主力商品で、世界各国に輸出されている。同社の製品には、ユニークな発想から生まれた独自の技術が各所に生かされている



小物の部品加工場。新鋭のマシニングセンター（複合数値制御工作機械）をそろえ、高精度の加工に対応している

修理の仕事に代わる、何かを見つけていかなければならないと考えた」

機械加工部門はまず、部品加工の仕事から始まった。佐藤社長は「目指したのは自動化装置や制御部の開発など付加価値の高い製品の製造。当時はそういう言葉はなかったが、今でいうベンチャー企業の先駆けだったんだね」と懐かしむ。

同社の業態転換は成功。事業は順調に伸びていった。基礎が固まった昭和44年5月には、東洋ボーリングの機械加工部門を独立させて有限会社東洋工機を設立。60年7月には株式会社社に組織変更し現在に至っている。

岩手の「エジソン」と「本田宗一郎」

同社の特徴は、危機を察知した時に別のステージに機敏に移れる柔軟さや時代の先を読んだ対応力があること。また、創業以来、独自製品の開発を貫いていることである。

佐藤社長は常々、社員たちに言っている。

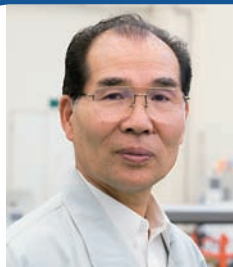
「常にニーズに応えられる態勢、つまりアイデアや提案力がなかったら、今は即、淘汰されてしまう時代だ。これはできない、とは言っていない。頭をフレキシブルにし、柔軟な頭の切り換えをしながら対応

していかなければいけない」

同社のキャッチフレーズは「発想自由型」である。佐々木会長と佐藤社長、そして同社はこれまで多数の特許を取得してきた。佐々木会長は新聞などで「岩手のエジソン」と紹介されたこともある。また、佐藤社長の話や経験談には、あの本田宗一郎と同じようなエピソードが多く、まるで「岩手の本田宗一郎」だ。アイデアを生み出すには苦しみが付うが、佐藤社長は、その苦しみが楽しいと笑う。立場上、「実はこれはウチの製品なんです」と公にできないものも多い。最近、開発した装置には、納入先の工場でも、その装置を入れ

たスペースをブルーシートで囲んで極秘設備に扱われるほどオリジナリティが高いものもある。そういう製品を開発しているという自負が全社員にあり、それがさらに素晴らしい製品を開発していこうという意欲につながっている。

フレキシブルな発想ができる人材の育成にも力を注いでいる。「私は社員たちに多能工になれと言っている。そしてさまざまな経験を積み、マンツーマンで育てている。私だっていつも作業着姿。しょっちゅう現場に出る。現場はやりにくいかもしれないけどもね」。佐藤社長はそう言って明るく笑った。



「岩手の本田宗一郎」と呼ばれる佐藤好夫社長。同氏の提案・アイデアは、東洋工機の数々の特許取得に結びついている。「新しいアイデアを生み出すには苦痛が付うが、それを楽しみに思えるか、苦しみに思えるかで道も結果も違ってくる」

企業概要

設 立	昭和44年5月
代 表 者	代表取締役社長 佐藤好夫
所 在 地	奥州市胆沢区小山字北蛸の手5-6 (本社・工場)
電 話 番 号	0197-46-4441
U R L	http://www.toyokoki.com
資 本 金	4500万円
従 業 員 数	50名
事 業 内 容	凸輪転多色刷ラベル印刷機、自動車生産装置、TK-型各種ブリーツマシン、小型オフセット印刷機、小型ドライオフセット印刷機、2色名刺専用印刷機、精密巻線機、アイレットオートマシン、ホイルハンガー、各種精密金型、各種治工具、各種プレス加工、各種精密加工、省力化機械設計製作、レーザー加工など